

### 兒童の自然宗教

既に述べたやうに幼兒は常に生氣説的アニミスティックであり、加之、自然の偉力は言ふに及ばず、物體も動物も、兒童を代理し兒童に對立してをり、善い者もあれば悪い奴もゐると見てゐるので、必然に有ゆる事物を人間的に解釋する傾向がある。而して自分よりも有力なものを見れば、第二の段階として、そこに其の對手を怖れて和解せんと試みるに至り、是に於て始めて一の宗教の形式を具へてくる。

エームス氏は、九歳前の兒童は無道德で無宗教な態度を幾らも超えることが出来ないと言つてゐるが、吾々は右の理由から之に贊することは出来ない。兒童は成人の立場を占めることが出来ず、成人の宗教と道德とを有することが出来ないといふのは皆是認すべきであらうが、さればとて全然無宗教であり無道德であるといふことは出来まい。兒童の宗教は迷信であり、其の道德は他律的の從順及び風習の域を脱してゐないことを認めると共に、是等の域に達しない兒童は蓋し缺陷兒又は本能上の異常兒であることを主張されるのである。

ドーソン氏の論は眞に近いやうに思はれる。氏の言うてゐる所では、兒童の自然宗教は、三つの主要素から成つてゐる。即ち生氣説的であり、人格的原因の信仰を有し、人格的不滅の信仰を有する。各種報告の示す所では、兒童は勿論自分には死ぬことのないものと假定してをり、最初寂滅に就いて考へることは彼等の到底忍びない所であるばかりでなく、想像出来ない所である。原始宗教に於ては、夢・幻・山彦・是等に類する諸現象が、早くから靈界の信仰を惹起するもので、人格不滅の各證據を握るに従つて、生氣説的の考が深く心の中に地歩を固めてゆくを見る。此の信仰の立場は科學に依つて否定されるやうに思ふが、尙ほそれを宗教のない兒童に於ては如何に取扱ふべきかといふ問題が残つてゐる。

### ベルゲン氏の報告

茲にまた一男兒が宗教的訓練を受けないうで宗教的觀念を生じた完全な一報告がある。其の両親は當時の宗教觀念に反對してゐたが、其の子は近所の折々教會にゆく人々に依つて偶然宗教上の事を知らせられた。

是は後に引用する他の記事と同じく、幼時に於ける環境の感化の著しいことを示す興味ある例である。

此の子供には宗教的教訓は與へられなかつたので、十五歳までは両親の意見は話さないであつた。召使は宗教上の事に就いては談らないやうに止められてゐたし、食事に於ける祈禱はしないやうにしてあり、宗教上の題目は此の子供の前では一切字で綴ることにしてあつた。勿論此の子供は其の綴られた語の意味を知らうと非常に物見高くなつてきた。彼は最初七歳の時イースター祭に寺院に行つたが、全く春季の復活の表號を解しなかつた。二度目は、十歳の時キヤツリックの晩拜式にゆき、そこでキリストの大畫像の印象を受けた。十二歳のとき寺院にゆかうと勧められたが、非常に嫌がつた。

此の子供は三歳の時ですら死に就いて幾分か知つてゐたが、十一歳まではそれを怖れてゐなかつた。然るに十一歳のとき、人並より身體が長じてゐるといふ譯でなかつたので、身體の貧弱に氣づいて、始めて死を怖れた。彼は十歳に於

ては靈魂を無形のものとして受け入れることが出来なかつた。而して動物の死を見てそれに就いて尋ねた。十二歳に於て彼は、來世に復活するといふことはあり得ないと言つた。

彼はバイブルを読むのを甚だ熱望した。それは人々がバイブルに就いて言ふ所は、他の書物に就いて言ふ所と異つてゐるのに注目したからである。併し十歳のとき、新約全書が與へられたときは、すぐに飽きてしまつた。十一歳に於て彼は、奇蹟の理由を説明して、イエスの或る實際の行動が、言い傳へられてゐる間に過大になつたものであるとした。

十五歳の頃彼は、物質界の後には或る力又は原因がなければならぬことを認めめたが、併し其の力は人格であつたと言ふべき理由はないと主張し、また事物を禮拜するのを賤んでゐた。随つて禮拜は意味ないことであつた。此の如く、グラッドグリンダ法は、宗教に於て、或る他の方法に於けると同一結果を生じた。

#### 宗教的教訓に對する兒童の態度

通常の宗教的訓練を受ける兒童の場合に

は、七歳までは、話されたものを疑はずして受容する。七歳と十歳の間に於ては多少の質問があり、十歳後は物事を考へようと試み、此の批判的態度は十三歳又は十四歳まで増してゆく。疑ふ心は、最初、「バイブルに言うてゐる」、「父が信じてゐる」などいふやうに、責任を他の所説にもつてゆかうとする傾向として現はれる。次には、宗教學的説明を、實際生活や兒童自身の親切・公正に關する觀念やを以て正さうとし、其等と相容れないものはそれを疑はうとする。併し全體としては兒童は疑問を起すことが少い。

スターバック氏は、バーンズ氏と共に兒童の宗教觀念を最も廣く觀察した人であるが、氏は、次のやうな要素が兒童の宗教生活に於て主位を占めてゐることを見た。

第九表 宗教觀念の諸要素(スターバック氏に據る)

要素	女	男
----	---	---

輕信及び服従	三・一%	五%
疑惑	五	五
神と懸引	四	二
護符としての神	五	五
近くにある神及び天國	一四	五
神に對する愛と信頼	一七	二
畏敬及び崇敬	四	七
恐怖	一六	七
宗教的儀式を好まぬ	九	二
宗教的儀式を喜ぶ	一七	七
正邪の念が強い	二二	一五

バーンズ氏も亦記してゐるやうに、兒童は父母や教師のした説明を疑ふことなく受容する傾向がある。ボールドキン氏は、之を以て確かに兒童が其の兩親に依從する感情によるものとした。又ホール氏の意見では、兒童が交易の觀念

を有し、愛や尊敬や恐怖の感情に乏しい事實は、兒童にとつて神は召使の一種である。あると教へよと両親に注意するやうに思はれるといふのである。バーンズ氏の論文は本質に於て同様のことを示すものである。即ち神・天國は兒童の思想に於て最も普通であり、地獄・悪魔は最も少い。靈界は大抵楽しい所と考へられてゐるが、珍奇な形象のものであり、現實とは異つた事をなす所であると考へられてゐる。

自然現象を神と關係あるものと考へることは困難である。神は兒童の意識にとつては全然現世界から離れたものである。

兒童は一般に、神は何をなすのか、宗教的儀式は神に對して何を意味してゐるのか等に就ては、頗る漠然たる觀念しかもたない。一男兒は神は世界を主宰すると言つてゐるが、其實兒童は、實際の仕事は天使がすると考へるやうである。

#### 兒童の宗教的感情と道德感

スターバック氏やバーンズ氏等の報告が典型

的のものであるならば、十二歳までは兒童の宗教意識は、概して、他人の説明を疑ふことなく受容したままの簡單なものから成つてをり、其の宗教的感情は未だ両親や友人から刺戟された依從及び神祕の情から分離してをらず、其の道德感に風習の要求する所を意味するのみに過ぎないと言つてよからう。兒童の恥辱とする所は、不正を爲すことではなくて、見つけ出されることであり、兒童の得た徳は、道德的論證を経た結果ではなく、模倣の結果である。

**同心の平均年齢** 併し十二歳と十六歳との間に、同心の一大時期が来る。斯る時機が二十歳前に來ないならば、其後に於ては殆ど斯る時機の到來する見込はない。

スターバック氏の記録の示す所では、三百三十名の兒童の中、女兒の同心の平均年齢は十二乃至十三歳、男兒のは十五乃至十六歳である。同心の來る第二期は、十六乃至十八歳である。即ち第一の時期は思春期であつて、成熟期の到來と同心とが密接に關聯してゐることは確かなやうである。身體が成長を遂げ

る時期には、其の完成のために他のものの必要を生じ、此の要求は自然に有ゆる方法に於て精神的・情緒的生活に反照してくる。神經中樞に於ける聯合纖維が急速に成長するために、精神上に漠然たる熱望・懷疑・不安が起り、是等は大部分は理想の追愛及び宗教の一形式たる英雄崇拜に依つて満足させられるであらう。此の如く、精神成長と身體成長との間に密接の關係あることは幼時の回心の記録(女の七一%、男の六四%)に依つても明かである。斯る回心は、過度の訓練又は強壓によることも多いが(八四%と七三%)、幼時の身體的發育にも伴ふやうである(四三%と二六%)。

**回心の意味** 「回心」といふ語の意味は、變化の急激なると徐々たることを問はず、總て高き生活の要求に對する覺醒と其の要求を達せんとする決意を包含するものである。多くの學者は、以下記する所に一致してゐる。

(一)罪業の感。是はリヴァイヴァルによる回心の一七%、其の他の回心の二〇%に見出される所で、其の中には宗教的訓練を受けた者もあれば、受けない者も

ある。此の中に魔魔や死後の結果や惡魔に對する恐怖をも含めるならば、上述の各、に一五%と一六%を加へて、それ／＼三二%と三六%としなければならぬ。前半生が惡であつたときは、勿論此の感じは一層優勢であるが、極惡の罪業がないときですらも之は現はれる。リュウバ教授の言うてゐる所では、恐怖は罪業ありと感せしめることが多く、而して疾病やヒステリー等が感情を刺戟するときには、罪業を感せしめる場合が甚だ多い。

(二)自己屈服。是は男の一〇%、女の一三%に於て現はれる。普通、これに先だつて精神上的の抑鬱や冥想がある。神佛・論證・懷疑との激しい對抗や争闘が演ぜられる。是は女に於てよりも男に於て激烈であつて、懷疑は女に於ける六%に對して、男に於ては三六%を算する。僅少の者にあつては、懷疑の後には善き生活を送るやうに決著するが、通例は、自己屈服後の順序として、希望・信賴・愛情が頂點に達する。

(三)信仰。男の一六%と女の一五%とに於て之を見る。信仰なるものの本性

に就いては色々宗教學者の間に論議があるが、吾々はそれが何であらねばならぬかが定るのを豫期することは出来ない。實際から見て信仰なるものは、他の何物よりも、神佛と善との同一に關する感情であり、信賴するに足ることの確信であるやうに思はれる。それは全く知的確信から來たもので、普通、獨斷の信條ではない。合理的な又は道理から推してきた信仰ではなくて、寧ろ一の情緒状態である。

(四)復ジヤステイファイケーション 正や宥免の感や(男の二二%、女の二四%に於て)、神明の加護の感情(一〇%と六%)やがある。是等があるのは、生理的にいふと、蓋し大なる神經抑壓から脱したとき必然に來る反動によるものである。茲には單にリヴァイヴァルによる回心の場合に就いてのみ言うてゐるのである。眞正な舊式のリヴァイヴァルを見たことのある人は誰も、或る場合にほんの何でもない身體的疲勞が回心と餘程關係のあることを疑ふことが出来ない。

(五)必然の結果として、大なる喜悅の感情がある。世界は新たに造られたや

うに見える。全性質は高い標線上に昇り、且つ多くの場合に(二四%と一八%)神靈の力に對して懺悔し告白する。

(六)意志は全然無力であるやうに感せられる。主觀は自己外の力に依つて支配される。意識的要素と無意識的要素との争闘、注意の線下に落ちてしまつてゐる習慣と漠然として言ひ盡されぬやうに感ずる諸觀念との争闘が、精神内に廣がつてゐるやうに思はれる。これもまた恐らく大部分は身體的變化が精神に反照せるもの——個體の生活と種族の生活との對立であらう。

同心と教育 回心の性質は、多くの人に就いて、何んな性質のものであらうといふことは、大方は見込がつくものである。キリスト教でも、メソヂイストのやうな宗派は、リヴァイヴァルの方法を用ゐ、急に絶對に罪業に遠ざかることの必要を教へるもので、之では最も著しい改造の場合を示すことが出来るが、聖エリスコバリ教派のやうな宗派は、宗教生活の漸次の發達を見るもので、之では頗る無事に進行するやうである。

教へること・模倣・社會的壓力が回心を起させた割合は、リヴァイヴアルの場合が四二%、其の他の場合が三七%である。是等は回心の唯一の要因といふことは出来ないが、主要なものであるとは言へる。

**同心と氣質**

コー教授の見出した所に據れば、回心を豫期してゐて果して回心した十六例の中、其の十二例は、精神状態が感情的(知的に對して)のものであつた。また残りの八例は、笑ひたければ笑ふ、歌ひたければ歌ふといふやうに、或る種の幻覺又は自動運動を有する者であり、其の多くは祈禱に對し特別に大膽に答へるやうであつた。

之に反し、回心を豫期してゐて適中しなかつた十二名よりなる一群に於ては、其の九例は知的のものであり、僅かに一名のみが幻覺も自動運動も之をもつてをり、甚だ少數だけが祈禱に答へた。

催眠術をかけると、回心した前の一群の者は、大概、受動的に暗示を受け、回心しなかつた後の一群の者は、一、二の者を除く外は、暗示を受容するけれども、何

等かの態様で其の暗示を變更し又はそれに添加するやうである。

回心の事情に就いてスターバック氏の擧ぐる所は次表の如くである。

第十表 回心の事情(スターバック氏に據る)

回心の事情	男	女
リヴァイヴアル又はお籠り <small>キヤムプ、ミーティンク</small>	四八%	四六%
リヴァイヴアル後家庭に於て	五	六
専ら家庭に於て	三二	一六
普通の寺院	四	二五
事情の不定	一一	七

**同心の動機**

社會的動機即ち客觀の方や罪業の感が回心の動機となることは前に述べた。動機は其の外にもある。天國に達せんがためといふやうな斯る自愛的動機は、リヴァイヴアルの場合と其の他の場合とを合した全體の二一%を占めてゐる。是等の動機は、平均すれば、幼時に於て最も高く、十六歳までは減

じ、それから十八歳までは増し、其後は減じてゆく。神やキリストの愛を動機として記したものは二%、道徳的理想の愛を挙げた者は一五%ある。後者の方の動機は漸次に増して其の人の回心する年齢と重要な關係を保つやうになる。是等の動機は新生活の性質を決すべきものであるが、其の率は各研究に依つて不同である。

第十一表 回心の動機(スターバック氏に據る)

動機	機	
	男	女
他を救はうと欲して	二五%	二五%
他に對する愛	四三	四二
大自然への接近	三六	三二
神への接近	四八	四七
キリストへの接近	五	六

宗教心の漸階的成長

次に主として回心の嵐を経ずに、漸階的に成長する

宗教生活を考察してみよう。發達が漸階的であるか何うかは、大部分は氣質に依ることであるが、兒童を幼時から宗教的環境の裡に置き、また宗教上の疑問を起したり智慧を得るやうにして置けば、漸階的成長を容易にする。斯る場合に於ては、突然な回心の場合に於けるよりも、神佛や不滅の信仰が甚だ重要な部分を占める。思想は全く自己の上に中心を置くやうなことがない。

思春期に於て宗教的感情が生起しなかつた場合には、其の代りに他の強い興味が生ずる。通常是は女の三三%、男の四三%に於ては道徳的興味であるが、知的興味である場合もあり(二一及び三二%)、美的興味である場合もある(一五及び一六%)。

**回心の永存** 回心の結果は永續するか何うか。成長は概して性格の一部であるから、漸階的成長の場合には、疑惑は起つても通例は鎮まつてゆく。

之に反して、回心の場合には、信仰の反動及び再建設の時期が頻りに來る。次表は此の間の消息を語るものである。



第十二表 回心の永存(スターバック氏に據る)

回心の果	男		女	
	リヴァイグアルの場合	リヴァイグアル外の場合	リヴァイグアルの場合	リヴァイグアル外の場合
永存	四八%	二四%	四一%	一四%
逆戻り	一三・七	一七・五	一四	一六
年齢	一七	一八・七	一四・三	一七
年齢	三・五	一・七	一・七	一・三

此の再建設は、蓋し單に宗教的信念の新解釋即ち個人に對する宗教の意味の生命ある實感であり、實感であることが多い。それは、争闘は劇烈なものであることが多いけれども、必然に寺院との絶縁を含むものではない。即ちまた其の不和を覺る。此の時期は通例十六歳から二十歳に至る時期に互つてゐる。

**幼児期の宗教** 幼兒に對して父母特に母は、神佛の位置に立つてゐるものである。絶対歸依の感情と、其の要求を父母が満足させて呉れるので自然に兒童が父母に對して生じた愛情とは、後生活に於て神佛に對し感ずる所と同一であつて、母と父とが自ら愛と感謝とを修養すればする程、兒童は自づとそれを感

じて、將來總ての善の至上の源泉たる神佛に向つてもそれを感ずるであらう。兩親が賢くて善良で愛情に富んでゐれば、兒童は神佛を以て賢くて善良で愛情に富むものと信ずるに容易であるが、父母が氣まぐれで氣分に左右され兒童の移り氣に従ふときは、兒童の神佛に對する觀念は同様の缺陷を有するに至るであらう。

又、兒童の生活の一々に就いて規律正しく順序を守り法則に遵ふやうにするときは、將來宇宙の法則を信せしめる上に最も効果ある準備となる。是は食事や睡眠の時間を規則正しくさせるといふやうに、身體上の一々のことにも適用される。

兒童が三、四歳になると、有ゆる事物に就て質問するやうになるが、宗教上の事に就てもまた質問を發し始めるために、宗教的教訓の問題が急迫となつてくる。斯る時機に會すれば、その質問に對して相應の答解を與へて、宗教心の芽を伸ばしてゆかねばならぬ。

### 兒童前期の宗教

兒童前期は空想の時代であり、現世界・物語等を信ずる時代である。此の時代はお伽話や佛典・聖書に於ける物語や神話をして聞かせねばならぬ。釋尊や親鸞上人や日蓮聖人や、或はキリストや聖徒の少年時代や生立の記などを話して聞かせねばならぬ。斯る物語の裡に兒童の宗教的萌芽は培はれ、宗教的情操の基礎は築かれてゆく。英雄物語・目覺ましい出来事・迅速な應報・正義の勝利などの物語も亦總て兒童の好む所である。佛教の方面では、骨折つたら經典の中から是等の材料を抽出することが出来るであらう。キリスト教の方面に就いては、舊約全書には是等のことが澤山記されてあり、ホール氏の意見では、舊約の道德觀は兒童のそれと甚だ近いので、新約の方よりも兒童に適當してゐるといふ。

### 青春期の宗教

青春期に於ては、愛情・愛他心・高き理想が芽を出してき、思春期に現はれてゐる自己に對する不満の感は、容易に深く罪業の感となつてゆき、神佛に頼るやうになる。其の生の結局、特に死と來世との結末は、他の時期

に於けるよりも強く現はれて、聖者の模倣と愛との最も強い動機となつてくるであらう。なほ後に至れば、佛教や基督教の發達即ち佛教史・教會史・ユダヤ人の宗教の歴史的側面や、或は比較宗教に於てなすやうなことに興味を有するやうになつてくる。

### 自然と宗教

此の宗教の人道的側面と並行して、自然的側面がある。天然及び天然物の崇拜は、人性に深く根ざした傾向であつて、兒童にあつては、其の生氣的傾向や、其の護符の信仰及び迷信や、ホール氏の「青春期」<sup>アドレセンス</sup>といふ書中に擧げてあるやうな種々雑多な自然現象に對して畏敬の態度を寄せる所などの中に現はれてゐる。兒童は、成るべく星多き夜や冬や夏に獨りで外にあつて、森に驚き、雲翳や風に冥想して、かくて其の間に溢れた無窮神靈の氣を吸ふがよい。宗教には社會的活動の一面を有すると共に、また靜觀・畏懼・神祕・無窮・永遠の側面をもたねばならぬ。是等は大自然との接觸から最もよく得ることが出来る。

### 宗教と成長

宗教が稚い兒童や青年の上に其の仕事在完成せんとならば、

宗教自身を彼等の本性に適應させるやうに努めねばならぬ。それには兒童と共に宗教も亦成長させてゆかなければならぬ。幼兒に適應するやうに變形した宗教では、其の中に生硬なところや迷信を含んでをり、且つ其の高等な形式に必要な或る要素を缺いてゐる。併し其等は兒童の成長に應じて、自然に高等の形式へと轉じてゆかねばならぬ。

#### 祈禱

兒童の精神發達は外形から宗教の内容に入るに適してゐる。されば祈禱を兒童にさせるか何うかの問題は、祈禱なき信仰を最初から解することの出来ない兒童期にとつては、別に論議する餘地はないやうに思ふ。祈禱を子供に教へることは、兩親の仕事である。兩親の敬虔な態度は、兩親を信賴してゐる兒童の直ちに模倣する所となり、而して容易に習慣となり、此の習慣は後日自覺心の發達に際して、始めて價値を認められてくる。

#### 學校教授

日曜學校と關係した、又は小學校に於て宗教的指導を加へてよいか否か等に關した、幾多の考究すべき問題がある。併し是等に就いては別に

論ずる機會があると思ふ。唯道德教育の基礎として、道德教育を根本的にやるには宗教的陶冶から出發しなければならぬといふことだけを言つて置きたい。宗教教授は問題の存する所であるが、宗教陶冶に關しては論議の餘地を認めるに及ばない。

#### 教義

或る特殊の教義を教授するとなれば、幾多の困難な問題が起つてくる。併し今日青年は、自らの要求に最も適してゐると自ら感じた特殊の宗教を選び、それを信ずる権利は之をもつてゐる。之だけは學校制度が如何にあらうとも拘束することは出来ない。而して此の特殊宗教に入る場合に幼時から馴れてゐる宗教には自然にはひり易い。されば一般的宗教陶冶を受けた子供でも、其の馴れた特殊の教義にはひる時機が一度は青春期に來るものとすれば、矢張り各宗教が各自に日曜學校を經營してゐることは、自然に意義をもつてくるのである。兒童の心理から見て、兒童を導くには、其の時期の精神發達程度に應じた形の宗教を以てすることが必要であり、成人のために出來た特殊宗教を以て

教育すべきではなく、一般宗教的人格者として陶冶を施すべきである。而して獨立の人格者にまで成熟して、自由に何か特殊の宗教にはひる時機を待つべきである。其のとき兒童の親熟した宗派は最も容易に彼を入れることが出来る。若し宗教教育に宗教政策の意味を含むべきならば、斯る程度に止めたいもので、幼時から特殊教義を教授することは、却つて拙な方法であると言はねばならぬ。

(をはり)

□ □ □	論概學理心童兒近最	□ □ □						
<b>發行所</b> 東京市神田區 表神保町十番地 <b>中文館書店</b> 電話 神田 四〇五五番 振替東京三八四二七番	<table border="1"> <tr> <td>著 作 所 有</td> </tr> </table>	著 作 所 有	大正十二年四月十日印刷 大正十二年四月十五日發行					
	著 作 所 有							
<table border="1"> <tr> <td>著 者</td> <td>關 寬 之</td> </tr> <tr> <td>發 行 者</td> <td>中 村 時 之 助</td> </tr> <tr> <td>印 刷 者</td> <td>柴 山 則 常</td> </tr> <tr> <td>印 刷 所</td> <td>會 社 杏 林 舍</td> </tr> </table>	著 者	關 寬 之	發 行 者	中 村 時 之 助	印 刷 者	柴 山 則 常	印 刷 所	會 社 杏 林 舍
著 者	關 寬 之							
發 行 者	中 村 時 之 助							
印 刷 者	柴 山 則 常							
印 刷 所	會 社 杏 林 舍							
□ □ □	圓 參 金 價 定	□ □ □						

奈良女子高等師範學校教諭  
及川久太郎  
自創在作  
**物理實驗室**  
版再  
全一冊洋綴  
紙數約四百頁  
送定價金約二百八十錢

文學士  
福富一郎  
バイル博士  
**教育心理學概論**  
版再  
全一冊洋綴  
紙數五百廿頁  
送定價金三圓十錢

東京帝國大學文學部教授  
文士  
吉田靜致先生  
同圓異中心主義と  
**道德生活**  
刊新  
全一冊洋綴  
紙數五百頁  
送定價金三圓十錢

文部省普通學務局  
就學兒童  
**保護施設の研究**  
刊新  
全一冊洋綴  
紙數五百頁  
送定價金三圓十錢

文部省囑託  
川本宇之介先生  
デモクラシーと  
**新公民教育**  
刊新  
全一冊洋綴  
紙數五百頁  
送定價金四圓十錢

東京高等師範學校教授  
可兒徳先生  
日本體育體操學校教授  
石橋藏五郎先生  
小學校に於ける  
**遊戯教授法真髓**  
刊新  
全一冊洋綴  
紙數五百頁  
送定價金七十五錢

東京女子高等師範學校訓導兼教諭  
堀七藏先生  
科學  
**空中之自然**  
版三  
全一冊洋綴  
紙數三百三十頁  
送定價金貳圓拾錢

東京女子高等師範學校訓導兼教諭  
堀七藏先生  
科學  
**發明と文明**  
版三  
全一冊洋綴  
紙數三百頁  
送定價金貳圓

東京帝國大學農學部教授  
澤村眞先生  
科學  
**飲食物の話**  
版再  
全一冊洋綴  
紙數四百八頁  
送定價金三圓十錢

鮮明なる二百の挿畫と  
前編なる講義は學生の  
實驗室に於て得るもの  
等し  
科學的教育研究の權威  
に據る完全な譯文は生  
れり然も文章又流暢な  
豊麗の上更に花を添ふ

現代社會を倫理的に  
解剖批判したる先生の  
一大警鐘國民道徳生活  
の原動力を教育諸君の  
必讀を希望して就中  
檢閲者諸君の活きた文  
良參考書

兒童の保護、低能兒童、  
病弱兒童、劣等兒童の  
特殊兒童の身體精神  
等の特異兒童の科學的研  
究

小學校に於ける競技と  
遊戯の軌跡如湯の指  
針として好讀者の必讀書  
である  
遊戯教授法の真髓を  
確且簡明に説述せられた  
である教育者諸君の秘  
である

本書は吾人の生活にな  
く變化する自然現象を  
兒童の位に自然現象を  
したるものである

吾人の祖先の原始時代  
の生活より今に至る迄  
の進歩を一に述べたも  
の加へ平易に説述した  
のである

吾人の生活上の切實な  
知識を得る  
は科學の知識を得る  
に何れも食物の知識が  
はしるべきである  
然し科學の知識を得る  
には本書が

全一冊洋綴  
紙數四百八頁  
送定價金三圓十錢

大正十一年十月  
 文部省教員  
 檢定試驗  
**受験者案内**  
 附試驗問題集

文學士  
 上野陽一先生  
**兒童心理學精義**  
 四六判全一冊洋  
 綴背皮紙數八百  
 頁定價五圓卅錢  
 送料金廿七錢

東京高等工業學校  
 附屬補習學校講師  
 川本宇之介先生  
 增訂  
**實業大正修身訓**  
 菊判全四冊和綴  
 紙數各百卅頁  
 定價各四拾八錢  
 送料各四錢

東京高等工業學校  
 附屬補習學校講師  
 川本宇之介先生  
 增補  
**修身教授**  
 革新にて  
 全一冊無代進呈

東京高等師範學校講師  
 野口源三郎先生  
 第七回オリンピック  
**陸上競技の印象**  
 全一冊洋綴  
 紙數三百五十頁  
 口繪二十五頁  
 定價金拾八錢  
 送料八錢

文學士  
 上野陽一先生  
**學校精神検査法指針**  
 八版  
 興判全一冊洋綴  
 紙數三頁插畫卅  
 定價金貳圓  
 送料金拾八錢

前奈良女子高等師範學校  
 訓導  
 齋藤諸平先生  
**發動分團教授一斑**  
 三版  
 興判全一冊洋綴  
 紙數三百八十頁  
 定價金貳圓卅錢  
 送料金拾八錢

大正十一年九月改正  
**現行小學校令**  
 及學事關係法規集  
 四版  
 興判全一冊洋裝  
 紙數百八十頁  
 定價金七拾五錢  
 送料金四錢

大正九年三月改正  
**現行學校衛生法規**  
 及通牒照會回答關係事項  
 新刊  
 興判全一冊洋綴  
 紙數百五十  
 定價金六拾錢  
 送料金貳錢

芳賀矢一校閱  
 石原ばんがく作歌  
 田村虎藏作曲  
**野外自然唱歌**  
 再版  
 全一冊假綴  
 定價金六錢  
 送料金貳錢

文檢受験者の無試験合  
 格者の範圍受験者の資  
 格その他受験者一切の  
 格例手續書式關す  
 指針である

廣汎たる最近の兒童心  
 理學界を貫きて電光の  
 如く輝き渡れる斯界の  
 權威は今や篤なる上  
 野先生の手に漸く成る

修身教授の革新は教科  
 書改革が最も緊急を要  
 するの言を待たない  
 之即ち本書の公刊せら  
 れた所以である

本書は修身教授の革新  
 に就て先生の意見を公  
 にせられたる堂々五十  
 頁に渡る大論文である

本書は大會に參加した  
 野口先生が我選手の  
 苦戰列國選手の選手  
 技術を科學的に批判し  
 我國競技の選手諸君  
 の好指針

本書の内容は兒童研究  
 指南の一句に盡きると  
 うして兒童を研究すか  
 の概論に就て詳説した  
 ものである

本書は先生が經營實施  
 三ヶ年その教育の能率  
 増進法を具體的説述せ  
 られたるものである

小學校に於ける唱歌科  
 教材として敢て提供す  
 乞ふ申込み無代進呈す



東京帝國大學文學部講師  
久保良英先生

兒童研究所紀要 3142

大判全一冊洋綴  
背皮四角皮洋綴  
金餘數壹千壹百天  
圖・着色畫三百九  
送定價九圓五拾四錢

東京帝國大學文學部講師  
久保良英先生

兒童研究所紀要 五卷

大判全一冊洋綴  
紙數三百頁餘  
送定價四圓八拾八錢

東京帝國大學文學部講師  
久保良英先生

智能査定用具

新刊  
ポール紙製盤附  
送料一揃 金拾八錢

奈良女子高等師範學校  
教諭兼訓導  
仲本三二先生

實驗新主義算術教授

版四  
全一冊洋綴  
紙數五百頁  
送定價四圓八拾八錢

東京女子高等師範學校  
教諭兼訓導  
堀七藏先生

堀實驗理科教授

版三  
全一冊洋綴  
紙數九百頁  
送定價五圓三拾七錢

奈良女子高等師範學校  
訓導  
鶴居滋一先生

自由教育  
上より觀  
兒童學習ノ一トの研究

版再  
全二冊洋綴  
紙數六百頁  
送定價金拾貳圓餘

東京高等師範教授  
可群馬野常政先生

理論  
實際  
女子體操遊戲

版三  
全一冊洋綴  
紙數六百頁  
送定價金拾八拾餘錢

奈良女子高等師範學校教諭  
及川久太郎先生

適應  
自在  
化學實驗室

版三  
全一冊洋綴  
紙數約七百五十  
送定價金拾八拾餘錢

農商務省技師  
農學士  
内田清之助先生

科學  
鳥學  
講話

版再  
全一冊洋綴  
紙數三百五十  
送定價金拾八拾餘錢

文部省囑托  
文學士  
青木誠四郎先生

低能兒及  
劣等兒の  
心理と其教育

版再  
全一冊洋綴  
紙數五百頁  
送定價金拾八拾餘錢

研究の紀要を公刊す  
る事第四回に及ぶ既に  
學術界教育界は等しく  
その眞價を認識し今や  
本書を編かすとして兒童  
の研究を語るの資格な  
き迄に激願せり。今回  
五卷の公刊に臨み其の  
四卷分を合編し學校教  
育家の爲め特に實費を  
以て願つ敢て乞ふ必讀  
研究を

久保先生の改訂せる智  
能査定法は我が學界の  
諸君に於ては益々其の  
用を製するに當り其の  
に者となつた

新主義算術の系統的研  
究の發表せられたるも  
の著者稀に研究の徹底  
好著である

理科教授の理論と實際  
の關係を握るその當  
の努力を以て教育界  
の

自己生長を圖るその偉  
大な師であり上であ  
る況や經濟の本書に  
刊する所以

少女の體育に如何に過  
度な指導すべきか本  
指針の實際なる種々  
切實なる論議を以て  
示す

鳥學の關する知識の切  
實なる圖と鳥の動物  
の內容を簡明に圖と  
が如く簡明に圖と鳥  
の好む理家材に於て

生理的・心理的・性的  
の教育の方法的特性  
をその發達の原を以  
てその教育の原を以  
てその教育の原を以



エト3R-46

<p>前東京女子高等師範學校 教諭 東京女子美術學校 教諭</p> <p>山本 ときく先生</p>	<p>前東京帝國大學文學部 講師 廣島高等師範學校教授 久保良英先生</p>	<p>東京高等師範學校教授 文學士 榎崎 淺太郎先生</p>	<p>廣島高等師範學校教授 ドクトル 文學士 久保良英先生</p>	<p>新撰裁縫教授法</p> <p>兒童研究所紀要 六卷</p> <p>精神分析法</p> <p>掘實 實驗理科教授 實際篇尋常科四學年</p>
<p>再版</p>	<p>新刊</p>	<p>新刊</p>	<p>新刊</p>	
<p>四六判全一冊洋 繪紙數約三百頁 定價貳圓拾錢 送料金拾貳錢</p>	<p>大判全一冊洋裝 紙數約四百頁 定價十圓拾錢 送料金拾八錢</p>	<p>菊紙全一冊洋裝 繪紙數約五百頁 定價四圓拾錢 送料金拾七錢</p>	<p>四六判全一冊洋 繪紙數約六百頁 定價四圓拾錢 送料金拾八錢</p>	
<p>本書は理論に於て實 先於て學問の權威を の育家に依りて成る 好指針である</p>	<p>本研究の紀要を公刊 する事既に五回學界 教育界に等しくその 價を認識し今やその 鑑かすとして兒童の を語るの資格なき現 激を稱するの現に</p>	<p>本書は十數年間の著 忠實に我が國の兒童 基いて研究したる新 科學の發達の研究新</p>	<p>現下教育界の大問 性の教育と其の取 したる根本的解決 上の兒童研究の基礎 刊の一大要である</p>	

終

